

インドスキタイ朝アゼス2世の小型銀貨紹介

吉池孝一

1. はじめに

古代文字資料館のサイトには当館所蔵のグレコ・バクトリア朝、インド・グリーク朝、インド・スキタイ朝、クシャン朝の貨幣画像と解説がある。次の貨幣はまだ紹介をしていない当館所蔵の貨幣である。径は15.51～16.25mm、重さは2.02g、材質は銀とみられる。



オモテ

ウラ

図1 古代文字資料館所蔵貨幣の画像（吉池撮影）

オモテの図像は右向きの騎馬像で、周囲にはギリシア文字・ギリシア語（Greekと略記する）と見られる銘文がある。ウラの図像は左向きの神の立像で右手に翼を広げた鳥らしきものを持つ。周囲にはカローシュティー文字・プラークリット語（Kharoshthiと略記する）と見られる銘文がある。貨幣のオモテ面とウラ面に異なる文字と言語による銘文をもつ、いわゆる二言語併用貨幣である。

2. 既刊資料の情報

まずは貨幣画像を集めた既刊の資料集のなかに類似する貨幣を探しその情報を整理する作業をしなければならない。手元には、グプタ、P.L.著(1969)/山崎元一他訳(2001)、渡邊弘(1973)、Mitchiner,M. (1975) (1976)、Sear, D. R. (1978,1979)、田辺勝美編(1992)がある。このうち、類似の貨幣は渡邊弘(1973)と Mitchiner,M. (1976)にある。渡邊弘(1973:44)所載の貨幣は拓本であり「インド・スキティアの貨幣」「アゼス二世」「銀貨」「半ドラクム」「A.D.5-25」とする情報がある。拓本の画像は小さく不鮮明であるため銘文を確認することはできない。

いまひとつ Mitchiner,M. (1976) の vol.VIの 563 頁は、Type 856 として類似する貨幣を 80 枚収める。「インド・スキタイ朝の貨幣」「アゼス 2 世」「前 20 年-前 1 年のもの」「重量は 2. 42g」とする。小型の貨幣である。材質は明示しない。80 枚のそれぞれの貨幣は、ウラ面の左右にあるモノグラムが異なるのみで他は同じように見える。その中から当館所蔵のものと同一のモノグラムを持つ貨幣を挙げると図 2 のとおりである。図 2 の銘文には欠落があり完全ではないが、同類の 80 枚の銘文を合わせ見ることにより、完全な銘文を復元することができる。当館の貨幣(図 1)の銘文も欠落が多く不完全であるが、両面の画像は比較的に良好であり細部を確認することができる。その点で紹介する価値はあると考える。



図 2 Mitchiner (1976) 所載貨幣の画像

Mitchiner (1976:558)の図像の解説と銘文の情報を整理すると次のとおりである。Mitchiner (1976:558)は銘文を原文字(Greek と Kharoshthi)で表記するのであるが、それをローマ字に翻訳し、ギリシア語、サンスクリット語、パーリ語の辞典等の情報を参照し逐語訳付した。全体の訳についてはグプタ, P.L.著(1969)/山崎元一他訳(2001:25)を参照した。王名の片仮名表記は一般的な呼称によることにした。

オモテ

- 図像 : 鞭を持ち馬に乗って右に向かう王の騎馬像。
 Greek : basileōs(王の) basileōn(諸王の) megaloy(偉大な) azoy(アゼスの)
 「諸王の王にして偉大なるアゼスの」

ウラ

- 図像 : 左を向くゼウスの立像。差し伸ばされた右手に翼を広げたニケを持ち
 左手に長い王笏を持つ。
 Kharoshthi : maharajasa(大王の) rajarajasa(諸王の) mahatasa(偉大な) ayasa(アゼスの)
 「諸王の王にして偉大なるアゼスの」

「オモテ Greek」には、一本の下線を付した basileōs basileōn megaloy が貨幣の内側から外を見るように並んでいる。時計回りに読む。二本の下線を付した azoy は貨幣の外側から内を見るように並んでおり、反時計回りに読む。「ウラ Kharoshthi」には、一本の下線を付した maharajasa(大王の) rajarajasa(諸王の) mahatasa(偉大な) が貨幣の内側から外を見るように並ん

でいる。反時計回りに読む。二本の下線を付した ayasa は貨幣の外側から内を見るように並んでおり、時計回りに読む。左から右に読む Greek と、右から左に読む Kharoshthi は、それぞれ二行の銘文よりなると見なすことができる。二本線を付した二行目はともに王名の属格となっている。王名の属格はとりあえず便宜として「～の」と直訳した¹。

3. 当館所蔵貨幣の銘文

Mitchiner (1976)から得られた情報により当館所蔵貨幣の銘文を読むと次のようになる。

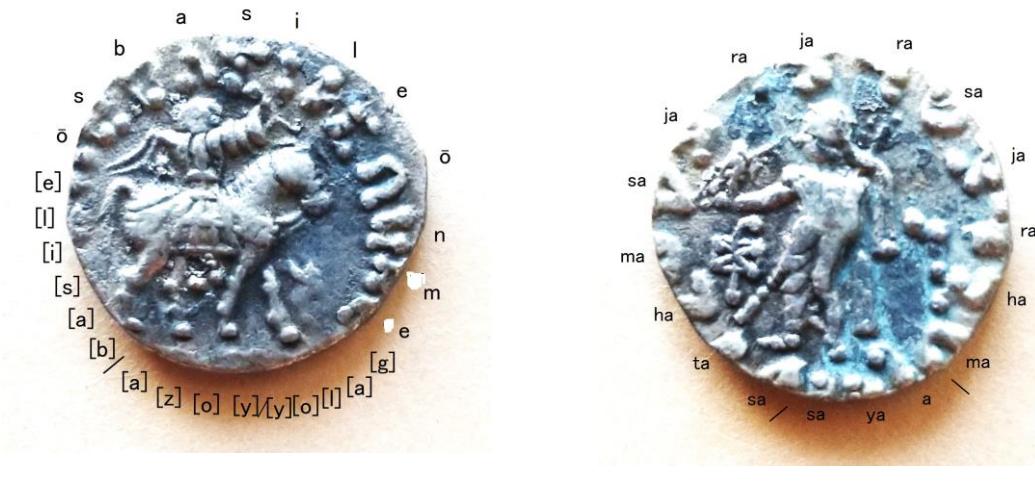


図3 当館所蔵貨幣の銘文にローマ字を付したもの

図3の図像に対する追加の情報と、銘文に付したローマ字の翻字をまとめて記すと次のようである。[]は銘文の欠落を示す。

オモテ

図像 : マフラーを左になびかせ、腕には環状の武具を付けている。馬の轡と二本の手綱、胴体に付けられた鞍の形状がわかる。

Greek : [basile]ōs basileōn me[galoy] [azoy]

ウラ

図像 : 左手をもち上げて肩のあたりで長い王笏を支え持つ。マフラー状のもの

¹ 王名属格の本来の意味については中村雅之(2019)と吉池孝一(2025)を参照していただきたい。古代ギリシアのアルカイック期における器物に記された「人名属格+第一人称单数動詞 *emi/eimi* (私は～である)」は器物自身が語る形式で「私は～のもの」を意味する。アルカイック期の「人名属格」のみの形式も器物自身が語る形式の省略形と考える。後代の古典期以降の貨幣に記された「王名属格」はアルカイック期の器物が語る用法の名残りと見なすことができる。もっともこの仮説は現在のところ一般に認められているわけではなく、多くの研究者はアルカイック期の「人名属格」も古典期の「王名属格」も、とともに「～の」と直訳して済ませている。場合によっては“貨幣”を付して「～の（貨幣）」とする。

を右に垂らしている。

Kharoshthi : maharajasa rajarajasa mahatasa ayasa

「オモテ Greek」の[]は欠落部分であるが、欠落部分に付したローマ字の字間は上側にくらべ詰まっており不自然ではある。修正の必要があるかもしれない。「ウラ Kharoshthi」については、文字の痕跡があるものにはローマ字を当てはめた。王名の ayasa の a の Kharoshthi の字形に問題はない。ただし、ya と sa に相当する部分の文字の痕跡に対して、Kharoshthi 文字の ya と sa を当てはめたが、やや無理があるかもしれない。参考として当館所蔵のアゼス 1 世の銘文にある王名表記 ayasa を提示すると次のとおりである。



【参考文献（発行年順）】

- グプタ, P.L.著(1969)/山崎元一他訳(2001)『インド貨幣史 一古代から現代まで』刀水書房。
田中美知太郎・松平千秋(1970)『ギリシア語入門 改訂版』岩波書店。もと 1951 年。
渡邊弘(1973)『西域の古代貨幣』学習研究社。
Michael Mitchiner (1975) *Indo-Greek and Indo-Scythian coinage*, Volume I, II, III. London : Hawkins Publications.
Michael Mitchiner (1976) *Indo-Greek and Indo-Scythian coinage*, Volume V, VI, VII. London : Hawkins Publications.
Sear, D. R. (1978,1979) *Greek Coins and Their Values*. Volume 1: Europe (1978), Seaby, London, Reprinted 2002. Volume 2: Asia and Africa (1979), Spink, London, Reprinted 2017. VOL.1 は 2002 年版、VOL.2 は 2017 年版による。
荻原雲来・辻直四郎(1979)『漢訳対照 梵和大辞典』新文豊出版公司、1979 年影印。
田辺勝美編(1992)『[平山コレクション]シルクロードのコイン』講談社。
水野弘元(1994)『パリー語辞典 〈二訂版〉』春秋社。
Glass,A. (2000) *A Preliminary Study of Kharoṣṭī Manuscript Paleography*. w e b 上に公開されたものによる。 http://depts.washington.edu/ebmp/downloads/Glass_2000.pdf
A. K. Narain (2003) *The Indo-Greeks: Revisited and Supplemented*. B.R. Publishing Corporation, Delhi, 4th repr. with suppl. もと 1957 年。
Salomon, R. (2008) *Two Gāndhārī Manuscripts of the Songs of Lake Anavatapta (Anavatapta-gāthā)*, University of Washington Press.

前田耕作(2019)『バクトリア王国の興亡 一ヘレニズムと仏教の交流の原点一』ちくま学芸文庫。もと前田耕作(1992)『バクトリア王国の興亡』(レグレス文庫)第三文明社。

中村雅之(2019)「ヘレニズム貨幣における王名の属格に関する覚書」『KOTONOHA』第201号(2019年8月)、20-21頁。

吉池孝一(2025)「古代ギリシアのパネースのコイン—王名属格の源流—」『KOTONOHA』第268号(2025年3月)、1-13頁。